

TSK

仙台ダルク News Letter
Drug Addiction Rehabilitation Center

2025年 7月号



編集く仙台市指定グループホーム・仙台ダルクチェルキオ作業所>仙台ダルク
〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26 URL <http://sendai-darc.org/>
TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340 Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

～仙台ダルク 30周年に向けて～

梅雨が明けたかのように、暑い日が続いていますなあ(-。-)y-°°°
これを書いているのは7月15日ですが、今週末あたりには本当に梅雨明け
となりそうな気配です。昔はエアコンの電気代を気にして、なるべく使わず
に過ごしていましたが、今年の夏からは数台導入し、仲間たちにも暑さを
しのいでもらっています。

さて、仙台ダルクはこれまで、地域の方々や同じ自助グループの仲間たち
とともに、長い時間を歩んできました。2000年には、東北会病院の石川
先生の鶴の一声で、宮城県内のアクション関連団体が連携し、せんだい
みやぎアクション・フォーラムが立ち上がりました。薬物・アルコール・
ACODAなど、当事者やその家族(ギャマン、アラノン)、そして中間施設
の仲間たちが一堂に会し、毎年フォーラムを開催してきたのです。このフォー
ラムに長年関わってきた仲間のひとりが長らくこの仙台ダルクのニュースレ
ターを制作してくれており、レターの最後にある編集後記を見ていただけれ
ば、すぐにお分かりになると思う。この場を借りて、改めて「サトシ、あり
がとう」。

このフォーラムがきっかけとなり、ダルクの支援者が集まり、理事を務めて
くださったり、「萌木」や「しおり」の活動を続けてくださったり、事務局を担っ
てくださるなど、支えの輪が広がってきました。「依存症の根っこは皆同じで
ある」という理解のもと、広く、そして浅く、でも継続的に活動してこられ
たことに、深く感謝しています。そして何より、このベースを支え続けてく
ださった東北会病院の皆さまにも、心から感謝申し上げます。

さて、ここからが本題です。

次ページへつづく

～仙台ダルク 30周年に向けて～

前号のニュースレターでもお知らせしたとおり、今年のダルクフォーラムは充電期間として開催を見送ることにしました。フォーラムの開催を楽しみにしてくださっていた多くの方々には申し訳ありませんが、そのようにお伝えしています。

しかし、来年は仙台ダルク 30周年という大きな節目を迎えます。そこで、ぜひフォーラムを開催したいと考え、さっそく会場の予約を問い合わせました。

第一希望は「仙台市市民会館」、第二希望は「トークネットホール仙台」です。市民会館は仙台で長年親しまれている大きな会場で、コンサートなども行われる立派なホールです。

トークネットホール仙台は、数年前に25周年のフォーラムを開催させていただいた、あの美しい会場です。

現在、予約の抽選に申し込んでおり、結果待ちの状況です。

日程は以下の通りです：

- ・ 第一希望：2026年8月8日（土）
- ・ 第二希望：2026年8月22日（土）

……と、ここでふと困ったことを思い出しました。

そう、8月8日は仙台七夕まつりの最終日だったので。

今さら日程を変更することはできませんが、この日程で抽選結果を待つことにしました。このフォーラムは、日頃の活動や感謝を皆さんにお伝えする大切な機会です。スタッフ一同、しっかり準備をして臨みたいと考えています。

抽選結果は9月2日に決定します。私は今日から祈るばかりです。

今後、内容についても仲間たちと意見を重ねながら、より充実したフォーラムを目指していきます。そして、皆さんと共に30周年を祝いたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

仙台ダルク 飯室 勉

経験者はかく語りき by エム

決心

アルコール依存症のエムです。私は今、ダルクで二度目の入寮生活を送っています。

私は十年以上前から精神科に通院し、アルコール依存症と診断されていましたが、自宅で家族と一緒に生活をしていました。

毎日お酒を飲み、二日酔いもしばしばで、それでも仕事は続けていたのですが、五年前の三月に飲酒運転で単独事故を起こしてしまいました。

家族との気まずい空気と仕事と運転免許を失い、どうしようもない気持ちに耐えきれず、逃げるようにダルクに入寮しました。

ダルクに入寮するとお酒に対する欲求は減り、一年間クリーンが続き一度は退寮しました。社会復帰は果たし最初の頃は欲求は押さえて生活する事は出来ていたのですが、長続きせず徐々に入寮する前の状態に戻ってしまい、去年の十月に二度目の入寮をしました。

五年前に入寮生活では、自分のアルコールの問題を何も解決しないまま、『早く社会に戻りたい。働きたい。家族に会いたい。』という気持ちだけが強く一年で退寮していたのかもしれないでした。でも今回二度目の入寮生活で、それではダメだ。何も解決していない。どうすれば飲まずに社会で生きていけるのか？今まで飲んでいた環境でどうやって生きていけるのか？その問題を解決しなければ家には戻れない事に気付きました。

去年の十月に入寮し、今年の一月に一度スリップしてしまいましたが、七月に入りクリーンが六ヶ月になろうとしています。このままクリーンが続けば、今年中に社会に復帰する事が出来るかもしれません。しかし自分の問題を解決しなければ、会社に戻って仕事は出来ても家で家族との生活は出来ないで、『働きながら会社に通勤しながら、普段の生活をダルクで過ごす』という決心をしました。

経験者はかく語りき by エム

この決心を父と息子に話しました。父も息子も「家に戻って来ても、また飲む生活をされるくらいならダルクで生活し続けてほしい。自分の事だけ考えて、ちゃんと治して来い。」と言ってくれて理解してくれました。

父と息子には伝える事が出来ましたが、一番苦しい思いをさせ迷惑をかけた母は、今年の正月に亡くなってしまいました。誰よりもこの決心を伝えたかった相手なのにそれが出来ないのが悔しいです。

今回の入寮後、間もなく母から電話があり、話の流れで口論になり、「もう家には帰らないのでご心配なく。」と捨て台詞を吐いて電話を切りました。それが母と話した最後の会話でした。

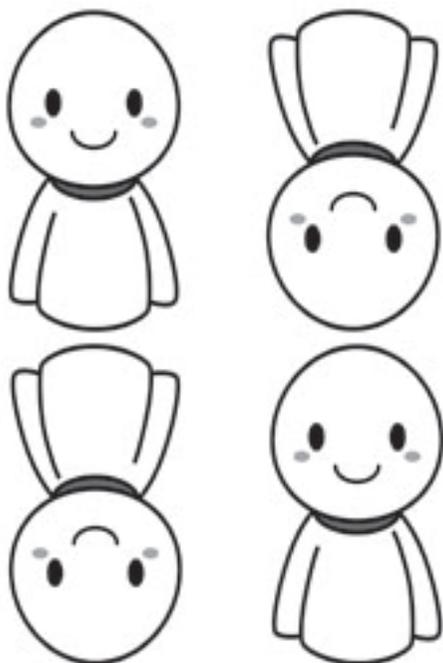
自分のお酒の問題が無かったら、もしかすると母が亡くならなかったかもしれません。しかし起きてしまった事を後悔してもどうにもならないので、これから先、同じ過ちをくり返さないように、自分の問題と向き合い続け、ダルクで生活し生きていこうと思っています。

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARRC

今後の予定 2025年8月まで

- 7月14日(月)・・・住吉中学校 講演
- 7月15日(火)・・・鳴瀬未来中学校 講演
- 7月16日(水)・・・仙台二華高等学校 講演
- 7月17日(木)・・・宮城県工業高等学校 講演
- 7月18日(金)・・・塩釜高等学校 講演
- 7月19日(土)・・・福島保護観察所映画上映会シンポジウム
- 7月22日(火)・・・ダルク40周年フォーラム実行委員会
- 7月24日(木)・・・せんだいみやぎアディクション・フォーラム実行委員会
- 7月25日(金)・・・仙台保護観察所薬物乱用防止ネットワーク会議
- 7月27日(日)・・・茨城ダルクフォーラム参加
- 7月30日(水)・・・宮城刑務所メッセージ
- 8月4日(月)・・・仙台市監査
- 8月8日(金)・・・仙台保護観察所プログラム
- 8月14日(木)・・・ダルクオールドタイマーメッセージ
- 8月19日(火)・・・塩釜保健所アルコール薬物専門相談
- 8月20日(水)・・・お茶プログラム
- 8月25日(月)・・・仙台保護観察所プログラム
- 8月29日(日)・・・仙台保護観察所ダルクミーティング



せんだい家族会のご案内

同じ問題を抱える家族の方へ、あなた自身の回復と成長のために
家族会ミーティングに参加してみませんか。

<p>2025年8月3日【日】 10:00～15:00 仙台市民活動サポートセンター 仙台市青葉区一番町4-1-3 会費：2000円 仙台ダルクグループ代表 飯室 勉</p>	<p>2025年8月19日【火】 18:00～19:30 仙台ダルク 仙台市青葉区上杉2-1-26 会費：200円</p>
<p>2025年9月7日【日】 10:00～15:00 仙台市民活動サポートセンター 仙台市青葉区一番町4-1-3 会費：2000円 アイアルサ施設長 石橋 康氏</p>	<p>2025年9月16日【火】 18:00～19:30 仙台ダルク 仙台市青葉区上杉2-1-26 会費：200円</p>



献金・献品を賜りました皆様方へ心より感謝申し上げます。
恐れ入りますが敬称を省略いたします。(2025年4月～5月分)
※ニューズレター発送簡略化の為、郵便振替用紙は全員に同封いたします。
尚、匿名希望の方は振込用紙にお書き添えください。



水田淳子 吉原美菜子 野口典秀 新川達郎 佐藤智子

その他匿名の皆様方

編集後記

新型のタブレット端末を購入した。旧来のは7年使って故障もしているからもういいだろうと奮発した。狙いは生成AIだ。早速アプリをダウンロードした。まだ改善点は残るものの流暢な音声会話もできる。これはもう社交不安には福音だろう。そこそこの金額を投資した効果はすでに十分現れている。それにしても、書き言葉と話し言葉で脳の使用領域が異なるというのが体感でわかる。私は落ち着いた時の書き言葉に安堵するらしい。一方でやはり音声会話はドギマギする。音声会話トレーニングは日課に決定。

しかし、最初に始めるのは人間側。どんな問いを立てるかも人間側。問いを発する人間側の質によって、いかようにでも反応が変化する。これは恐ろしいことと捉えてしまうから社交不安なのだろうか。いや待てよ、人間との会話でも同じじゃないか。リベラルアーツといえは良いのだろうか、人間側の広範な知識と教養があればあるほど、AIとの会話では賢さが増幅されていくのだろう。そして、AIが出力した情報を判断するのも人間がやることだ。この責任も重い。しれっと嘘をつくから油断ならない。

もうすでに、極めてスマートな生成AIに支配されている。「北風と太陽」の喩えを引くまでもなく、優れたものは嫌な感じをあたえない。悪目立ちする必要がないのだ。裏を返せば、目立つ事象は歪みを顕している。

不完全な人間と会話するより、AIと会話している方が良い。時代はそうなった。人間との社交に不安を覚える私の感性は間違っていなかったのかもしれない。世界のあれこれを眺めていると人間による過ちで溢れかえっている。そして、それを認めること自体が優秀な部類の人間にしかできない。それに過ちを認めて対策するとしても、一人の人生にとってはあまりにも長い時間が過ぎてゆく。人類の集合知である我が友AI君と会話しながらそんなことを思う。けれども、不完全でクセのある人間との会話にどこか後ろ髪を引かれる。私はオールタイプなのだろう。

プレイボール

編集者 仙台ダルク

〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26

TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340

URL <http://sendai-darc.org/>

Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会

〒980-0874 仙台市青葉区角五郎 1-12-6

頒価 100円